

2024年度書朋毛筆部昇段試験を終えて

公益社団法人滋賀県書道協会 理事長 神田 浩山

今年も多くの方が挑戦頂きありがとうございます。各段審査担当の審査評を掲載します。今後の学書の参考にして下さい。

初段（古迫）

- 新しい息吹を感じさせる新鮮なものが多く、楽しく審査させて頂きました。
- 全体に若々しい元気な書きぶりのものが多かったですが、ともすると力が入りすぎており、筆を押さえすぎていたり、文字が大きくなりすぎていたりするものが散見されました。筆の浮沈を意識して柔らかな筆づかいをすることで筆の毛が伸びやかに動き、筆勢が生まれることを学んでほしいと思いました。
- 「創作」作品は、課題文字をただ大きく書いただけのものが多かった気がします。創作とは、まさにオリジナル作品を作ることです。その文字を使つて何を表現したいのかと言う「思い」を持って取り組んでほしい。気持ちを込めて書くと、筆は必ず書き手の思いを紙に伝えてくれます。自分にしか書けないオリジナルな作品作りを意識してください。
- 普段から書朋に積極的に地道に取り組んでおられる方は「線」が練れており、「流れ」を感じさせる生き生きとしたものになっている気がしました。やはり、一年間を通して毎月の課題にじっくりと取り組んでいただく姿勢が大切だと感じました。

二段（三原）

総体的に生き生き、伸び伸び元気に書いていました。ただし残念に思えたのは次の二点です。①行書の動きが縮こまっている方が多い。②賞状は、きっちとしつかり書けると良いのですが、行が曲がったり、全体のバランス

が悪い人がいました。「術」の右上の点が欠落した方も散見されました。

三段（前田）

全般的に懸命に書かれており、意気込みが伝わってきました。どの部門も合否の判断は、自信を持つて書いてあるかどうかでした。形が良くても、なぞったような線ではいけません。漢字作品は、原本の形や筆の動きを忠実に学ばれることをお勧めします。収める文字数にも留意が必要です。一行に六文字の方もいらっしゃいましたが再考を要します。仮名や実用書は、筆を立て、筆のバネを遣い仕上げるよう鍛錬してください。創作は、墨量の効いている

もの、体で書いてあり動きのあるものを評価しました。試験の時だけ創作をするのではなく、普段から創作部へ出品され学習されることが大切です。

四段（神戸）

合格された方は全部門において平均的に良く書けていると感じました。漢字の課題ですが、篆隸・楷書・行草書それぞれの古典の特徴をしつかり捉えて、筆遣いや墨量の変化、行の流れ、線の太細の変化等を考えて練習されると良いかと思います。仮名は、日ごろの練習の不足を感じます。端正で優雅、美しい連綿が際立つ高野切第三種の特徴をしつかり捉えて臨書してほしかったです。二行の行間が広く空きすぎているのも気になりました。実用書は、字配り・文字の大きさ等、書朋一月号巻末の解説を見て練習されることをお勧めします。最後に創作です。四段受験であれば全紙サインに挑戦してほしいと思います。紙いっぱいに大きく書くだけでなく、墨色や紙面構成にも工夫が必要です。

五段（藤居）

漢字部については、単に「楷書・行書が上手に書けます」というレベルから、それぞれの古典が持つ雰囲気をいかに感じとり、半切という形式で表現するか、観る者にそれを感じさせられるかというレベルを目指すことが大事なポイントとなります。墨量の不足や選ぶ箇所、字数の多少で残念な作品が見受けられました。かな部は、半切に書くという経験が不足していると、どうしても滑らかな流れや、筆の抑揚を感じられないものになってしまいます。賞状については、せっかく書朋一月号に参考手本やポイントを挙げているのですから、それをしつかり研究し、濃い墨で堂々と書かれることを期待します。創作では、濃墨と淡墨を組み合わせたり、水でぼやかしたりするなどの加工や用具用材の工夫ばかりが目立ち、そのことで、肝心の線のよさや、余白の美しさなどが損なわれないような注意が必要です。書朋の優秀作品や各種展覧会の作品を多く見て、作品のイメージを豊かにされることをお勧めします。細々としたことを挙げましたが、上記の点に留意して、実践されている方々の作品が多くあり、やりがいのある審査となりました。

令和6年度毛筆昇段試験結果

段位	受験者数	合格者数
師範	67	10
準師範		16
六段	59	26
五段	62	31
四段	61	36
三段	76	52
二段	99	80
一段	132	119
計	556	370

六段（押谷）

合格すれば次は師範試験。そこまでの力量が備わっているかを評価の観点として審査しました。漢字の臨書はさすが高段位で卒なく仕上げられていました。やや中心が整わないもので減点があります。反面、大字仮名には慣れておられない方が多いのか、墨量が過多で線に切れがないものが多く見られました。実用書は、全体のバランス・まとまりは良いのですが、自信なさげで弱くエッジの立つてない書きぶりが見られます。またご自身の氏名でミソをつけた作品もあり、日頃から書き慣れるようにしたいものです。創作には、詩文を書き連ねたものが少なく、一字をドン！と表現したものがほとんどでした。中でも造形力、潤滑の工夫が見られるものを評価しています。

師範（神田）

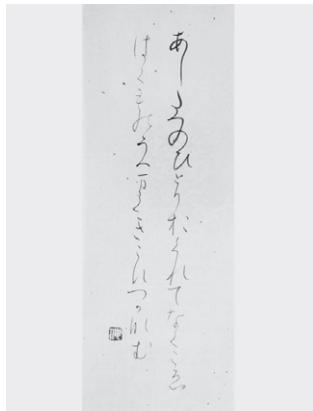
師範は実地試験です。日頃から「自分で考えて書く」という姿勢が必要です。先生からお手本をもらってまねるだけでは合格は遠い道のりです。毎月の課題が師範試験の「模擬試験」だと思って取り組んで下さい。毎月全ての課題に取り組むこと。創作の課題でふだん取り組んでおられないと思える作品が多くありました。苦手な分野を克服することも大切です。苦手だからといって月例で取り組まなければ苦手のままです。秋にある実技講座に積極的に参加しましょう。

師範に合格された皆様、おめでとうございます。でも、ここから再出発です。さらに力をつけるためにも教室を開き指導して下さい。公募展にも出品しましよう！書の世界をどんどん広げて行つて下さい。師範優秀者表彰もぜひ目指して下さい！まだまだやること、できることは一杯ありますよ！

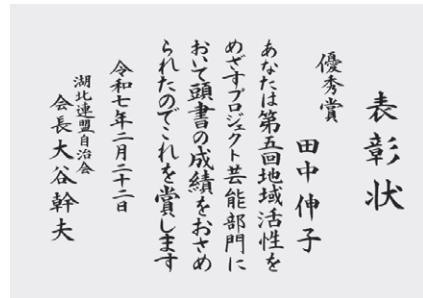
師範合格者優秀作品



▲佐藤 友美



▲田中 伸子



▲田中 伸子



▲松本 優希



▲国松有加里



▲藤田 清子



▲谷口 明子